僕の目で見た和歌山

于洪麟
交換留学生　中国

日本に来てから、もう二ヶ月が経った。最初のころの緊張感と不安感が知らず知らずのうちに消えた。今、僕は日本の生活に溶け込もうとしている。この作文でこの二ヶ月間の生活について、自分の目で見たことを通して和歌山、日本、僕の母国のことについて述べたいと思う。

日本に来る前、和歌山とは一体どういうところなのか全くわからなかった。ただ北京に留学している日本の友達から、和歌山は江戸幕府の第八代将軍徳川吉宗の誕生地であり、幼い頃、生活していたところと聞いただけであった。日本の歴史と文化に深い興味を持っている僕は、ここに来てすぐに和歌山の歴史と文化に魅了された。暇があれば、自転車であちこちに行った。僕にとっては遊園地のような歴史的な多くの観光地や博物館を訪れた。ここはまるで天国のようだ。和歌山は西日本の外様大名をおさめるための紀州徳川家の重要な拠点と知られているだけではなく、日本文化の発祥地の一つであると思われている。なぜなら、日本に現存する最古の和歌集である「万葉集」には多くの和歌山に関する和歌が載っているからだ。例えば、和歌浦の名前の由来である、山部赤人の「若の浦に潮満ち来れば潟を無み葦辺をさして鶴鳴き渡る」と、有間皇子が処刑される前に作った「磐代の 浜松が枝を 引き結び 真幸くあらば また還り見む」などの名作は和歌山と多少の関係がある。

もう一つ僕を感動させたのは、和歌山に住んでいる人たちである。僕の実家の北京と比べて、和歌山は大都市ではないと思うが、自然が多いこの環境だからこそ、和歌山の人々の素朴でやさしい性格が生まれたのだろう。僕は、琴ノ浦温山荘園を見物した時、日本人の方と一緒にガイドさんに解説してもらった。もちろん、専門用語が多すぎる上、話のスピードが速いので、何を説明してくれたのかは全く分からなかった。しかし、ガイドさんは僕が外国人だと知ると、日本人の方が離れた後、もう一度僕一人をつれて荘園をゆっくり回ってくれた。ガイドさんは僕が本当に彼の説明が理解できたことを確認してから、次のスポットに行った。この他人のことに気を配る優しさに僕は非常に感動した。その優しさは和歌山のどこでも感じられる。

日本と中国には多くの文化と文字の共通点があるが、人の意識や考え方が全く異なる。中国人より、日本人のほうがまじめで完璧を目指しているように思う。日本人はどのような難しいことがあっても文句を言わず、地道に努力しているということをいつも感じる。しかし、日本の生活はなんだか不自由に感じることもある。中国より、日本にはたくさんの見えないルールがあるのだが、これにはなかなか慣れることができない。このような真面目さと他人の見方を気にしすぎることは、日本人が持っている美徳なのか、それとも日本の社会の問題なのか。このことは、面白い問題だと思う。

まだ、僅か二ヶ月しか経っていないが、日本の文化と生活に深く惹かれた。これから、何があるか、留学の生活は、どのような思い出になるのか、僕も楽しみだ。